宋版大般若経

【所　在　地】志布志市志布志町志布志２－１－19　大慈寺
【種　　別】県指定有形文化財（書跡）
【指定年月日】昭和 28 年９月７日

中国の宋時代の大般若経（大般若波羅密多経の略）の一部である。大般若経は，印度の仏教経典を唐の高僧玄奘（三蔵法師）が漢訳したもので，全部で 600 巻からなる。

大慈寺二世剛中玄柔が島津氏久の協力を得て，宋に 10 人の禅僧を送り３年の歳月を要して大蔵経２蔵（組）を得て，１組を東福寺に寄贈し，１組を大慈寺に残した。

しかしこれは，明治のはじめの廃仏毀釈後，寺が再建された時には痛みがひどくなっていたことが知られる。現在は「巻第四百八十九　劔」の一巻のみが保存されている。

表には肉筆で「大般若経　四百八十九　劔」と記され，奥書（文書の末尾にその書の由来などを書いた部分）には「紹興壬午五月」（1162 年）の年号が見られる。

用紙は黄麻紙，縦 29.5cm，幅 11.5cm で，80 面，468 行の折本となっている。

なお，東福寺に寄せられた１組は現在も残っている。

〈参考〉

●剛中玄柔　大慈寺開山（創立者）玉山の法嗣（仏教の伝統をうけつぐあととり）で大慈寺二世。文保２（1318）年，豊後に生まれ，早くより玉山に師事し，玉山の死後大慈寺に入る。大慈寺にいること 40 年，のち京都の南禅寺に入り，元中４（1387）年には東福寺 54 世となった。